

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式・記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は昨年度と同じ5題であり、全体の総解答数は昨年度の36問と同じく今年度も36問と変わらなかったが、昨年度出題された史料問題や、表を読み取る問題が出題されなかったため、ボリュームは低下した。総解答数中の記述式解答の数は、一昨年度は11問、昨年度は16問、今年度は14問と推移している。正誤判定問題の数は、一昨年度は17問、昨年度は11問、今年度は20問で、昨年度よりも大幅に増加した。語句を記述させる問題は、昨年度のような史料文中のものを答えさせる問題が出されなかったため、易化した。全体の難易度は、正誤判定問題の数が増加したものの、昨年度出題された史料問題や、表を読み取る問題が出題されなかったことから、易化とした。

出題の特徴や昨年との変更点

本学部は小問数の少ない大問を数多く並べる形式が定番であったが、一昨年度から大問が5題に減少し、昨年度・今年度とも大問は5題であった。総解答数は昨年度の36問と同じく今年度も36問と変わらなかった。また、近年の新傾向として、正誤判定問題で解答を二つ選ぶ形式の問題が出題されていたが、今年度は出題されなかった。

また、上述のように史料問題は出題されず、図版を用いた文化史問題である大問Vでは昨年度は記述式で問われたシノワズリーが正誤判定問題で出題された。また、例年複数枚登場する図版が昨年度は一枚のみであったが、今年度も一枚のみであった。大問Iでは4年連続で図版を用いた問題が出題されており、最初と最後の大問で図版が用いられる形式が定着してきたといえよう。

その他トピックス

今年度は20世紀以降からの出題がほぼ見られなかった。またヨーロッパ史からの出題が相対的に低下した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式	先史～古代の 世界各地の像	資料Aは女性裸像(石のヴィーナス)、資料Bはシュメール人像、資料Cはモエンジョ = ダーロの神官王像、資料Dはオルメカ文明の巨石人頭像、資料Eは秦の始皇帝の兵馬俑坑である。設問1. 女性裸像は旧石器時代後期に作られた。ア. 旧石器時代後期は食料生産段階とはいえないため、「食料生産段階に入っていた」が適切とはいえない。イ. 旧石器時代は約250万年前～約1万3000年前にあたる。最終氷期が終了したのは約1万年前なので、時期が合わない。ウ. 女性裸像はユーラシア大陸各地で発見されているが、アフリカやメソポタミアでは発見されていない。設問2. メソポタミア南部のシュメール大都市はイとウであり、イのウルはイギリス人によって発掘された。設問4ア. オルメカ文明ではアルパカやリャマといったラクダ科の動物は家畜化されなかった。ウ. オルメカ文明は金属器を使用していない。エ. インカ文明の説明。インカ文明は文字を持たず、キープ(結繩)を用いた。	難
II	マーク式 記述式	世界史上の文 化や思想	設問2ア. サッフオーはレスボス島出身。イ. ピンダロスの生没年は前518～前438であり、ペロポネソス戦争(前431～前404)と時期が合わない。エ. オウィディウスはアウグストゥス帝によって流刑に処せられた。設問3 a. 『アガメムノン』はミケーネの王家の悲劇を主題とする。b. アリストファネスは、ペロポネソス戦争期のアテネで活動し、同時代の政治家・哲学者・詩人を風刺した。設問5ウ. コロッセウムは、1世紀後半のティトゥス帝期に完成。設問7イ. アーサー王はケルト人の英雄。	やや難

Ⅲ	マーク式 記述式	古代～前近代 の朝鮮	設問1は「東に朝鮮と境界を接していた」から、燕を想起して解答する。設問3ウ. 高句麗から日本に派遣された僧である曇徴は、紙墨や碾臼などの製法を伝えたとされる。ア. 広開土王碑は414年に建立され、北齊の建国は550年なので、北齊との戦いが記録されることはない。イ. 安東都護府は隋ではなく唐が設置した。エ. 高句麗が遷都したのは平城ではなく平壤。設問8イ. アダム＝シャルはフランスではなくドイツ出身。	標準
Ⅳ	マーク式 記述式	モンゴルの拡大	設問1ウ. 『アクバル＝ナーマ』はアクバルの回想録ではなくその家臣であるアブル＝ファズルが著した統治の記録。またアラビア語ではなくペルシア語で書かれた。設問5イ. ティムールはチンギス＝カン(ハン)の直系子孫ではなく、チンギス家の娘婿の称号を用いた。設問6. アッバース朝の滅亡は1258年。ア. イブン＝ハルドゥーンは1332～1406年、イ. イブン＝シーナーは980～1037年、ウ. タバリーは839～923年、エ. イブン＝ルシュドは1126～98年の人物。	標準
Ⅴ	マーク式 記述式	印象派と日本 への影響	今年度も文化構想学部で頻出である、作品を用いたヨーロッパ美術史が問われた。設問2イ. シノワズリーは17～18世紀にすでに流行しており、時期が合わない。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全体的には、難易度は高い。今年度は昨年度2題出題された史料問題が出題されなかったことから、昨年度の難易度と比べて全体では易化とした。とはいえ本学部志望者にとって史料問題対策は必須である。文化史では写真を用いてやや難の事項を書かせることもあるので図版にも注意。単なる年号暗記ではなく、時代順に事項を並べ替える感覚や世紀を意識した学習を心掛けたい。